

海外調査報告

●11/3～11/6 にかけて米国カリフォルニア州サンフランシスコ市にて履行ボンド制度及び工事代金支払いの調査が実施されました。今回は、調査に参加した当社社員の報告を掲載いたします。

●調査概要

世界の建設業界は、新型コロナウイルス感染症の影響から回復し、多くの地域で建設プロジェクトが活発化している。一方、建設資材費及びエネルギー価格の高騰による物価上昇や労働者不足が深刻化しており、全世界の建設プロジェクトに大きな影響を与えている。しかし、全世界における持続可能なインフラ整備の需要は拡大しており、欧州、北米、アジアでは再生可能エネルギー関連の建設プロジェクトが注目され、優れた技術力が強みな我が国の建設企業も多く進出している。

こうした状況を踏まえ国際建設プロジェクトの増加や経済の不確定さが増す昨今の状況の中では、確実性を担保する保証制度として履行ボンドの必要性がますます重要となっており、その運用実態を把握することを目的として、業界団体が実施する現地調査に参加し、我が国の建設企業が多く進出するサンフランシスコ市を訪問した。本調査では多様で複雑なリスクが存在する海外の建設プロジェクトにおける履行ボンドによるリスク管理と米国の公共工事における工事代金の支払い方法及び建設企業の資金調達手段について現地で確認を行った。

●調査結果

現地調査では、建設企業、保証ブローカー、弁護士と面談し、制度の確認だけではなく、契約不履行時を含めた実際の運用と公共工事の工事代金支払いと建設企業の資金調達の確認を行った。米国における履行ボンド制度は、プロジェクトに積極的に参加し、発注者と請負者の紛争や代替業者の選択等の発生した問題点に専門的に関与するだけではなく、請負者へのファイナンスのアドバイスや資金的援助も行う保証会社（損害保険会社）の保証が一般的で、請負者の履行ボンド申請、条件交渉や保証会社の審査支援等の役割を担うブローカーの存在は制度の運用上重要なものとなっているようであった。

米国公共工事の工事代金支払いと建設企業の資金調達は、出来高部分払が支払方式として定着しており、工事の進捗に応じた出来高に対して、竣工検査が終わるまで一定額が留保される保留金を控除した額の支払いを行うことが一般的な方法のようである。

資金調達は、内部資金の不足を補う手段として、一定の条件下で確定債権となった工事代金の債権譲渡が認められている他、金融機関から融資を受け調達している。

●現地での体験と気づき

現地調査の合間には、街の様子や生活環境に触れる機会もあった。サンフランシスコは、東京の山手線の内側くらいの広さに約 80 万人が居住する丘陵都市で、一年を通して気候は温暖で快適に過ごせそうな印象を受けた。交通機関もケーブルカー、タクシー、バス、メトロと多様で、私は早起きをして集合時間までの間、ランニングでシーフードマーケットや現役時代の新庄監督が在籍し、バリーボンズ選手のホームランボールを船上でキャッチする映像が印象的なサンフランシスコジャイアンツの本拠地であるオラクルパークにも足を運んでみた。ランニング中のエピソードとしては、サンフランシスコでは多くの無人タクシーが決して遅くはないスピードで走っていたのだが、右折する先にいた私を検知して停止したのを見て身をもって自動運転技術の高さに驚かされたのと同時に、丘陵地帯を自分の走りでも感じたからこそケーブルカーの重要性を感じることができた。

また、物価高と円安の影響で現地グルメを満喫することができなかったのが心残りであり、将来の楽しみである。

●まとめ

今回、業界団体が実施する米国カリフォルニア州サンフランシスコ市における履行ボンド運用実態の現地調査に参加し、建設企業、保証ブローカー、弁護士と面談する機会を得たことで、資料だけでは把握しきれない生の声を聞く貴重な経験ができた。米国における履行ボンド制度は、保証会社に期待される役割が金銭的な保証のみではなく多様であること、履行ボンドの運用においては、請負者と保証会社を繋ぐ専門職であるブローカーの存在が重要であること、また、連邦政府、州と発注主体により法令、契約慣行等に違いがあるようである。米国における工事代金支払いは、我が国のような前払金制度ではなく、工事の進捗に応じた出来高払が主流であり、不足分は借入金による資金調達を行っていることから金融機関との信用関係が重要であると感じた。

